

甲斐市立 竜王東小学校 自己評価書

令和 5年 1月 27日 (金) 作成

校長 丹沢 貴浩

記述者 職名 教頭 五味 正年

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども (自主性, 創造性)
- (2) 決まりを守り、思いやりのある, 心豊かな子ども (社会性, 道徳性, 情操生)
- (3) じょうぶでたくましく, 最後までやりぬく子ども (健康な心身, 強い意志)

学校経営方針

- (1) 活力に満ちた「特色のある学校づくり」を目指し, 知・徳・体の調和を重視し, 児童や地域の実態を的確に把握した「生きる力」を育む適切な教育課程により, 多様な教育活動を通して学校教育目標の具現化に努める。また, その達成状況を把握, 整理し, 取組の適切さを検証することにより教育活動を組織的, 継続的に改善する。
- (2) 学習指導要領の主旨や内容に基づいた適切な教育課程を編成し, 「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指し授業改善及び評価に取り組む。オープンスクールとしての施設, 設備及び学校ボランティアをはじめとする貴重な人的資源も活用し, 生涯にわたり学習する基盤が培われるよう, 確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。
- (3) 全教育課程を通して, 教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級集団づくりに取り組む。児童が所属感, 自己有用感を持つことができるような活動に取り組み, 一人一人のよさや可能性を活かすように努める。
- (4) 自ら運動を実践する態度を育成し, 体力の向上を図り食育並びに心身の健康の保持増進及び安全に関する指導を関連させながら, 望ましい生活習慣の育成に努める。
- (5) 保護者, 地域社会との連携を深め学校内外を通じた児童の安全, 安心を基盤とし, 家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

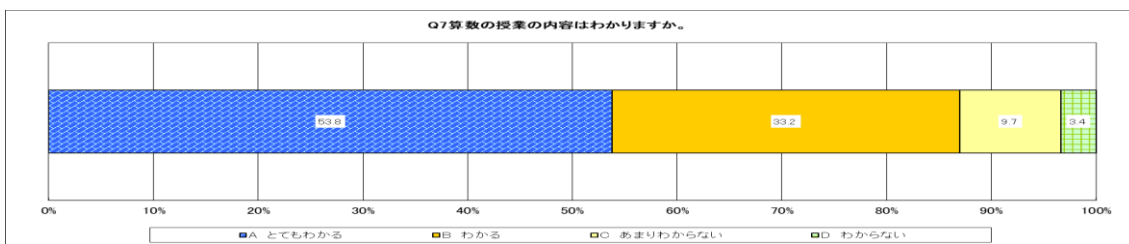
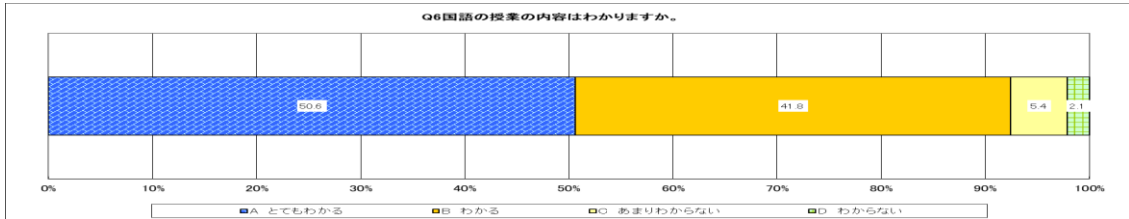
1 全体評価

- 学校経営方針に基づき, 教育目標の実現に向けて一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより, 教育活動全般にわたって, 児童と保護者から肯定的な評価を得られた。本校の学校評価に関わる総合的な評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- 学校教育目標が具体的な行動目標として示され, それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け, 教育実践を行った。
- 学校教育目標の具現化に向け, 職員同士が連携し協働体制を意識し行ったことで, 校務分掌が有効に機能し, 全教職員が主体的に学校運営に参画した。
- 校内研究は, 研究主題である『全ての児童が「わかる・できる」授業をめざして～ICT活用を主とした授業のユニバーサルデザイン化による授業改善を通して～』として, 昨年度行ってきたICTの機器の活用について探ってきたことを活かし, 今年度は, ICT機器の有用性を通しての授業改善を行うことで, 全ての子どもが「わかる・できる」を感じることを狙って行ってきた。職員一人ひとりが主題に沿った実践を行うことやICT機器を利用することで, 課題を捉えやすくなったり, 説明のための補助になったりした。さらに, 児童一人ひとりが調べ学習や発表資料作成などを主体的に進めることができる「個別最適な学び」を充実させることができた。また, そこから, それぞれの児童が作った物を元に比較・検討し新たな考えを導き出す協働的な学習へと繋げていくことができた。しかし, ICT機器が全児童に配られて2年しか立っていないことから, 高学年の児童の機器のリテラシー(キーボードを使った文字入力)

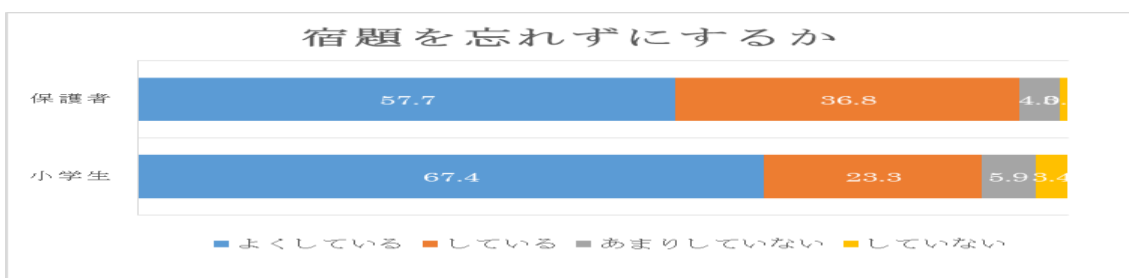
<p>がまだまだ追いつかない状況もある。今後、持ち帰りも含め、一人一台端末を日常的に活用し、児童一人ひとりのリテラシーを高めていく必要がある。</p> <p>○全ての教職員が一人一人の児童と積極的にコミュニケーションを取り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子供達が楽しい学校生活を送っている。</p> <p>○今年度は、昨年度と比べても新型コロナウイルスに感染する児童や保護者が多く見られ、多くの活動が制限されてしまった。地域による下校の見守りやPTAにおける朝の旗振りの安全指導にこれまでと変わらぬ協力をいただき、学校教育活動を推進することができた。</p> <p>○本校の強みであるオープンスペースや広い校庭などの施設・設備を活かし、感染症対策を徹底しながら子どもの成長を止めない教育活動に力を入れることができています。</p>	
<p>2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）</p> <p><注意>肯定的評価 …… A「とてもそう思う」、B「そう思う」を合わせた割合を百分率によって表している。</p> <p>評価の平均値…… A「とてもそう思う」=10、B「そう思う」=7.5、C「ややそう思わない」=5、D「そう思わない」=2.5 としてアンケートデータの平均値を表している。</p> <p>※もとのアンケートでは4点満点で回答してもらっているが、よりわかりやすくするため、素点に2.5をかけ10点満点で換算して出している。</p>	
<p>I 学校教育目標に関して・学校経営について</p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの評価項目中「学校経営方針と学校教育目標」「教育活動計画」「教育実践」「特別支援教育」においては、肯定的評価は100%であり、4項目全体の評価の平均値も9.0ポイントで、良好な評価であるといえる。学校教育目標を達成するための経営方針が具体的に示され、教職員一人ひとりが学校教育目標の具現化に向け教育実践を計画的に行っていると考えられる。 ・「PDCA サイクルを活かした教育活動を行っている。」の項のA評価が3分の2となり平均値でも昨年度の9.0ポイントから今年度8.9ポイントとなった。昨年度より、0.1ポイント下がったが、良好だといえる。全ての教育活動で、計画から振り返りまでしっかり行い、次への改善を考えながら行っていることがわかる。 ・「特別支援教育の体制」では、評価の平均値が9.0ポイントと高い。特別支援コーディネーターを中心に、特別に支援が必要な子どもに対して、校内で共通理解のもと関係職員で支援を進めてきた。また、特別支援学級では、交流学級と密に連絡を取り合い、学習計画の調整を行いながら、進めることができたことが考えられる。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度も継続して、校長が学校経営方針を丁寧に説明し、全教職員にそれを十分に理解させるとともに、校長のリーダーシップのもと、教育活動を計画的に推進していけるようにしたい。 ・昨年度に続き、PDCA サイクルの意識は高い。さらに、日々の教育活動から大きな行事に至るまで、計画から実施、振り返り、改善へと一連の流れを一つ一つ丁寧に追いながら、よりよい活動へ繋げていけるようにしていきたい。
<p>II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）</p>	
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・7項目中5つ「危機管理マニュアル」「個人情報保護・情報セキュリティ」「協働体制」「報告、連絡、相談、確認」「働き方改革」においては、肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.9ポイントで、良好な評価である。 ・この結果の中でも、特に「報告、連絡、相談、確認」については、評価の平均値が

	<p>9. 5ポイントと高い値を示しており、行事関係の連絡調整や生徒指導や保護者からの連絡など細かな情報の共有をすることで全体が迷うことなくスムーズに動いている。また、教諭から管理職へと密な報告・相談を行うことで、課題をチームとして取り組み解決していくことができたことも増え、多くの職員がより「報告、連絡、相談、確認」の大切さを認識し行う事が出来た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協働体制」においても評価の平均値が9.3ポイントと高い値を示している。上記とのつながりもあり、情報を共有することで、大きな行事等でも全体の動きが見えてくる。そのため、どこでどのようなことが行われているかが分かり、協働体制が作りやすく、みんなが助け合いながら行事を進めることができたと考えられる。また、生徒指導や保護者対応においても、一人で抱え込まず、必ず数名体制を作り対応してきた成果が出ていると考えられる。 ・「校内研究・研修」では、評価の平均値が8.6ポイントと概ね良好である。昨年度ICTの使い方を研究・研修したことで、本年度の授業活用につながり、研究への大きな踏み出しができたと考えられる。また、研究を続けるうちに、授業でのICTの活用幅も広がり、さらに研究への意識が高まった。 ・「働き方改革」の意識が、昨年度の評価の平均値7.8ポイントから今年度8.8ポイントまで伸びている。職員一人ひとりから出された「働き方を見直す」アイデアを実施するとともに、本来の教員が行うべき業務について、具体例を挙げながら研修して学んだことが大きく伸ばす一因となっていると考えられる。 												
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「校務支援システム」においては、評価の平均値が8.0となっている。PCを使うことで事務的手続きや成績処理などを行っているが、本校の成績処理方法が複雑で特殊なため、負担が大きい。来年度は、成績処理負担を軽減するため、甲斐市と統一した成績処理方法を採用していく予定である。 ・「働き方改革」においては、取組や意識が大きく変わってきている。超過勤務時間は少しずつ減ってきてはいるものの、指導内容の増大、コロナ禍での計画の見直しなど課題は多い。具体的な方策を採ってきてはいるが、まだまだ十分とは言えない。今後は、教員が行うべき業務とそうでない業務をしっかりと分け、本来教員が子どものために真に必要な教育活動を効率的に行えるようにしていく必要がある。また、今年度も進めてきた協働を重視し、一人一人が孤立せず、そのよさを味わい、「働きやすい職場である」という実感を持つよう改善を進めていきたい。 												
<h3>Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）</h3>													
	<ul style="list-style-type: none"> ・7項目中6つ「意欲の喚起」「基礎・基本の定着」「指導と評価の一体化」「ICTの効果的活用」「協働的な学び」「宿題や家庭学習」について肯定的評価が93.3%であり、この項の全体の評価の平均値も8.6ポイントで、概ね良好な評価である。 ・「意欲の喚起」については、評価の平均値は9.3ポイントとなっている。「意欲を喚起」するためには、しっかりとした教材研究と教材の準備が必要になる。普段より、多くの職員がしっかりと準備を行って授業に取り組んでいる。 <p>児童や保護者の回答でも肯定的評価は98.0%と92.0%となっており、日々の職員の努力の成果が出ていると感じられる。</p> <div data-bbox="260 1771 1401 2018"> <p style="text-align: center;">先生はよく勉強を教えてくれる(C-5、TⅢ-①、P-8)</p> <table border="1"> <caption>先生はよく勉強を教えてくれる(C-5、TⅢ-①、P-8)</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>よく教えてくれる(4点)</th> <th>教えてくれる(3点)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>児</td> <td>81.3</td> <td>16.7</td> </tr> <tr> <td>教</td> <td>80.0</td> <td>13.3</td> </tr> <tr> <td>保</td> <td>19.4</td> <td>72.6</td> </tr> </tbody> </table> </div>	対象者	よく教えてくれる(4点)	教えてくれる(3点)	児	81.3	16.7	教	80.0	13.3	保	19.4	72.6
対象者	よく教えてくれる(4点)	教えてくれる(3点)											
児	81.3	16.7											
教	80.0	13.3											
保	19.4	72.6											

- 「基礎・基本の定着」では、評価の平均値が9.0ポイントと高い値となっており、基礎・基本を大切にし、繰り返しをしながらしっかりと定着させようと意識は高い。また、理解の遅い子供達には、支援員と協力しながら個別な対応を行いながら学習を進めている。児童のアンケートの「国語の授業の内容はわかりますか。」や「算数の授業の内容はわかりますか。」では、肯定的評価は92.4%と87.0%となっており、授業の内容がわかる子どもたちが多いことがわかる。このことから、教職員が、児童一人一人を取り残すことのないように努力していることがわかる。



- 「協働的な学び」では、教職員の評価の平均値が8.7に上昇した。一人一台端末を活用して全児童が他者の考えを共有し、小グループまたは学級全体で異なる考えについて比較・検討することができてきている。その活動を通して、異なる意見を組み合わせたり、新しい考えへと発展させたりする協働的な学びにつながったと考えられる。
- 「宿題や家庭学習」では、教職員の評価の平均値が8.8ポイントとなっている。授業の振り返りや学習した知識を定着させるための繰り返しを宿題に出したり、自主的に行う学習に取り組ませたりしている。児童や保護者の「宿題や家庭学習をしていますか」の回答でも肯定的評価が90.7%と94.5%となっていて、家庭学習の重要性も理解し、保護者の多くが協力をしてきていることがわかる。これからも家庭と連携しながら続けていきたい。



改善策

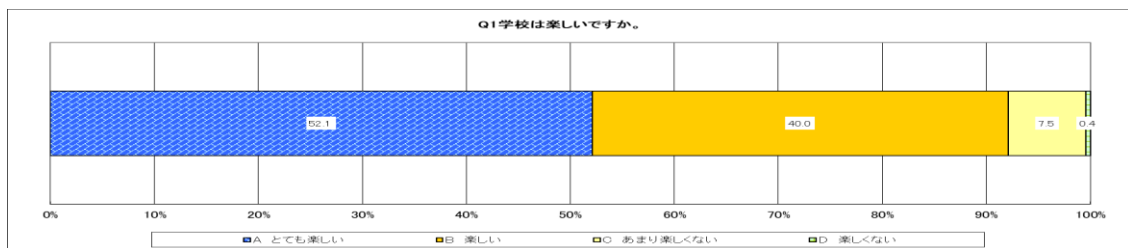
- 「基礎・基本の定着」で「算数の授業の内容はわかりますか」の項目については、13.0%の子どもが「あまりわからない」につけている。子どもたちがしっかりと考えを出し合い、お互いその考えを比較・検討しながら、よりよい考えに気づいたり、より深い理解に到達したりしていないのかもしれない。個別最適な学びから協働的な学びの一体的な充実を行う授業改善に努めていきたい。また、学習支援が子どもたちには思うように行き届かなかったところがあるのかもしれない。来年度は、担任と支援員または学力向上スタッフの間で密に情報交換をしあい、より手厚い支援を入れると同時に、算数の支援時間を増やしていきたい。
- 「指導と評価の一体化」は、Bの評価が多く評価の平均値も8.0ポイントとなっている。普段の取り組みを見ていると多くの学年で週あたりの授業案(予定表)を作っており、指

導については意識が高いことが伺える。しかし、児童の振り返りを活かし、次の学習指導の改善を行うところが十分でないのかもしれない。今後は、各教科単元の評価規準をより意識しながら、計画的に学習を進めて行くことを大切にしたい。

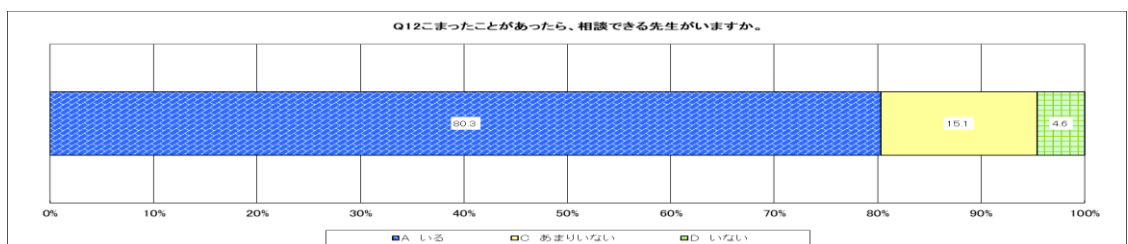
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

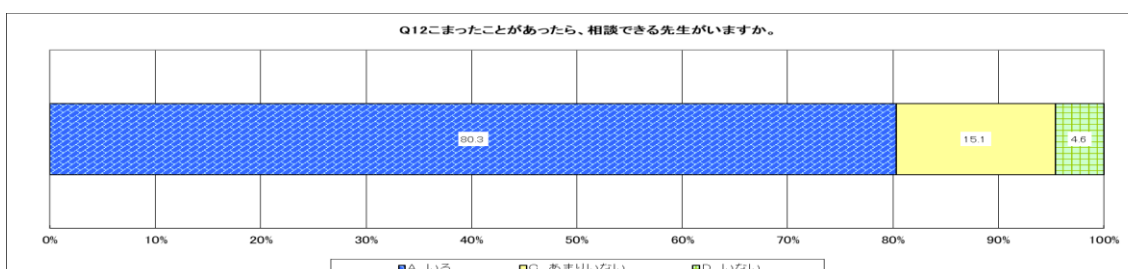
- ・ 7項目中4つ「児童理解のためのコミュニケーション」「規範意識」「問題行動の早期発見・早期対応」「全職員の共通理解」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.9ポイントで、良好であるといえる。
- ・ 「民主的で規律のある」は評価の平均値は9.3ポイント、「規範意識」は評価の平均値は9.0ポイントであった。民主的で規律があり、規範意識も高い学級づくりをしていることは、安心して過ごせる環境が整っているといえる。安心して過ごせることは「楽しい」にも関連性が深い。児童の「学校は楽しいですか」や保護者の「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思うか」の項目を見てみると、それぞれ肯定的評価は、92.1%と90.8%で高い数値が出ていることから、「民主的で規律のある」「規範意識」については、職員が意識高く取り組んできた成果が出ていると考えることができる。



- ・ 「児童理解のためのコミュニケーション」においては、評価の平均値が9.0ポイントと高く、普段より意識して児童とコミュニケーションを取るようになっていることが分かる。また、児童のアンケートにも「困ったことがあったら、相談できる先生はいますか。」の問いに80.3%の子供達がAを付けている。このことから教職員の普段からの声かけが、児童に届いていることがわかる。これからはしっかりとコミュニケーションを取りながら指導を続けていきたい。



- ・ 「問題行動の早期発見・早期対応」の評価の平均値は8.7ポイントとなった。職員は積極的に児童とのコミュニケーションを取り「一人一人に変わったことがないか」「元気に過ごしているか」等普段の様子から情報を集めたり、学期1回の生活アンケートでも情報を集めたりして、早期発見・早期対応に努めている。また、児童の「困ったことがあったら、相談できる先生はいますか。」の割合は高いことから、普段より、児童の様子を観察



することやアンケート以外にも、子どもからの訴えも受けやすい環境を作っているといえる。

- ・「全職員の共通理解」の評価の平均値は9.1ポイントとなった。月に1回の情報交換会を持ち、それぞれの学級での心配事や問題行動等を職員全体で共有している。また、担任一人を孤立させることなく、関わりのある職員で負担を分担しながら指導に当たることができている成果が出ていると考えられる。

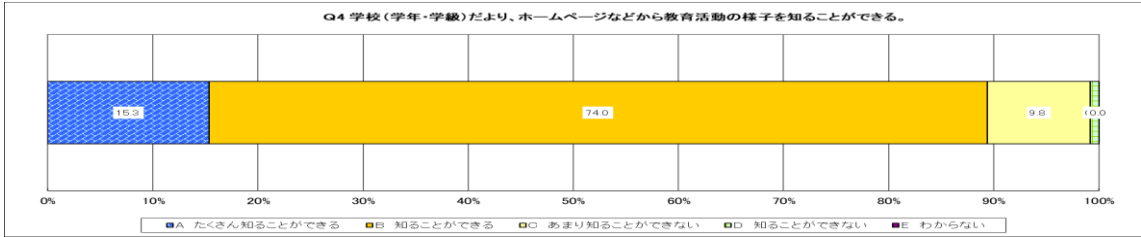
改善策

- ・「キャリア教育」では、評価の平均値(7.6→8.2→8.4)が上昇してきている。特別活動の学級活動及びホームルーム活動を要とし、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにすることがキャリア・パスポートの活用である。キャリア・パスポートは3年目を迎え、職員も年間を通して活用することができてきている。今後、さらに発達段階に応じた指導を行うことによって、児童が培われたキャリアをふり振り返りまとめる機会としてキャリアパスポートを使っていきたい。

V 地域との連携について

達成状況

- ・5目中3つ「情報収集を行っている」「たよりやHPでの広報活動」「安全確保」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.7ポイントで、概ね良好な評価である。
- ・「情報収集を行っている」では、普段より保護者との連絡を取ったり、行事の際には保護者にアンケート書いていただいたり、PTA活動でも意見を言える場を作ったりとご意見や要望を聞くようにしている。いただいた意見に真摯に取り組む職員の意識の高さがうかがえる。保護者のアンケートでも肯定的評価が81.0%と概ね理解は得られていると考えることができる。
- ・「たよりやHPでの広報活動」については、評価の平均値が9.7ポイントと高く、学校の様子や学年便り、関連機関からの通知など幅広く掲載し、ほとんどの情報が得られるようになったことが高い評価につながったと考えられる。保護者のアンケートにも肯定的評価が89.3%となり十分意義は得られている。このアンケート後になるが、お便りやお知らせが確実に保護者に届くように、12月より新メールシステムを導入した。今後も、より確実に情報を届けていけるよう努めていきたい。

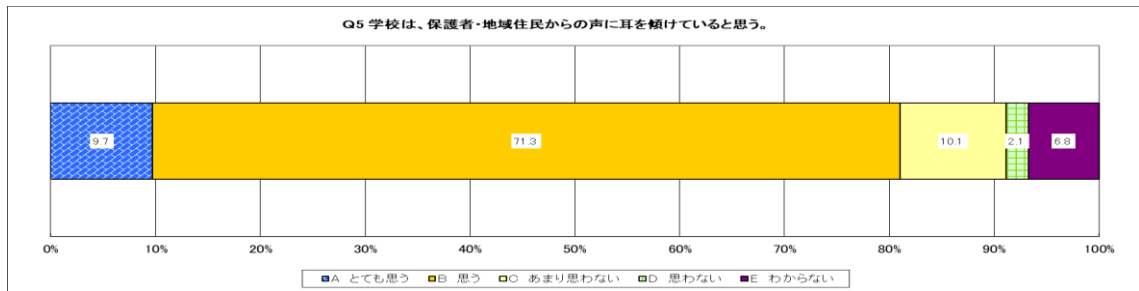


- ・「保護者や地域との連携による安全確保」については、評価の平均値が9.1ポイントと高い。夕方は地域の「帰り道ふれあいボランティア」の方々の見守り、朝は保護者の旗振り街頭指導によって児童の登下校の安全が守られていることに感謝している。今後も続けていけるよう、学校の様子を地域へ発信したり、地域の方々への感謝の気持ちを表したりしながらWINWINのつながりを続けていきたい。

改善策

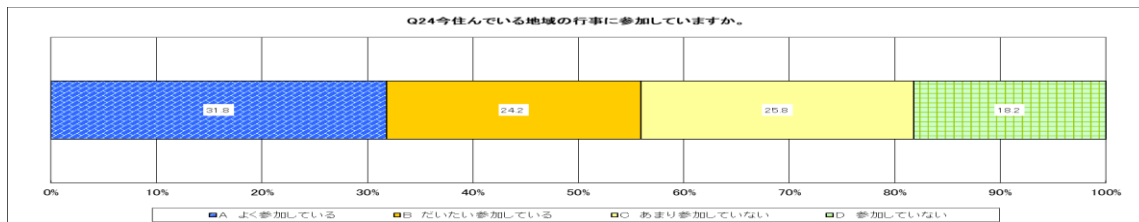
- ・「情報収集を行っている」では、保護者アンケートでは「保護者や地域住民からの声に傾けている」に対して「あまり思わない」が約10%、「わからない」が約7%となっている。いろいろな方法で情報を収集しているが、より細かい部分まで学校に求めていることが分かる。今後、学校と保護者の役割を区別し、それをしっかり伝えていきたい。学校で

できることとそうでないことについて理解していただけるよう説明していきたい。



- ・「地域の人材・施設の活用」や「PTA 活動に参加」に対しては、昨年度より今年度の方がコロナ感染者数も大幅に増えるなど、地域との活動には制限が多く、必要最低限の事しかできていない。今後、新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されたり、今まで培った感染症対策をしたりする中で、地域とのつながりやPTA活動の活性化を地域の方や保護者の方々と一緒に考えていきたい。

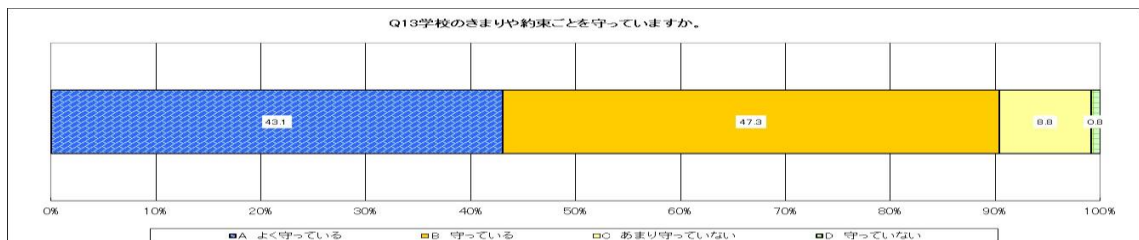
地域での行事についても同様なことがいえる。児童アンケート「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」では、参加しているのは56%で、約半分である。保護者についても同様な項目について、児童が参加しているのは61.9%と低い。まだまだ新型コロナウイルス感染症の影響は大きいと考えられる。



VI 学校の特徴に関して

達成状況

- ・3目中2つ「たてわり班活動」「児童の規律（ノーチャイム）」について肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も9.0ポイントで、良好な評価である。
- ・「たてわり活動」では、評価の平均値は8.8ポイントと高く、高学年がリーダーシップを発揮出来るよう取組体制をつくと同時に、低学年も活動にスムーズに参加できる体制をつくる指導を行うことで進めることができた成果が出ていると思われる。
- ・「児童の規律（ノーチャイム）」では、評価の平均値は9.4ポイントと高い。学期ごと学校内反省を行い、改善策を考え、全職員共通理解のもと一貫した指導を進めてきたことで成果として表れていると考えられる。また、「学校の決まりや約束ごとを守っていますか」の問いに対して児童の肯定的評価が90.4%となっており、規律の大切さが浸透してきていることが分かる。引き続き指導をしていきたい。



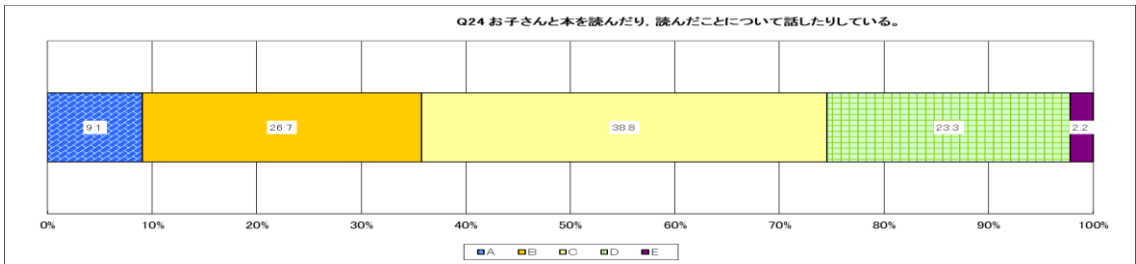
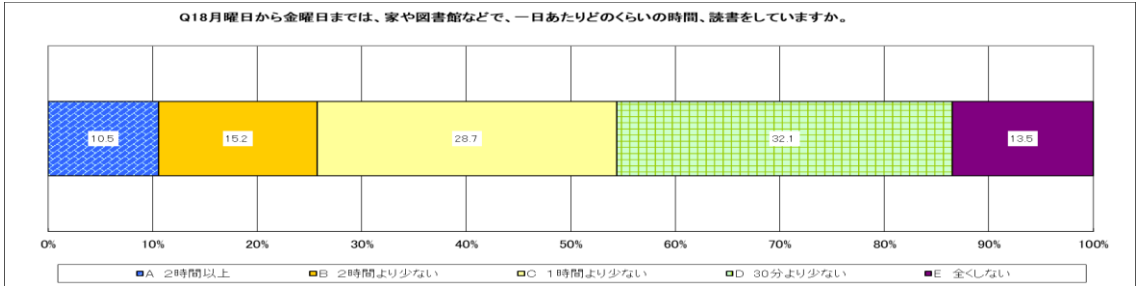
- ・「のびっ子タイム」では、評価の平均値が8.8ポイントと高く、昨年度の反省を活かし、しっかり計画を立て進めることができてきている。この時間は、国語の1単位時間の45分を3等分に分割し、1モジュール時間を15分で行っている。そこで、漢字学習や言葉の学習、音読、言語活動など時間的制限に適した学習を順番に充てている。本来の1単位

時間と1モジュール時間を計画段階で上手く組み合わせることで有効的に使えるようになってきている。今後も、単位時間とモジュール時間を一緒に考えることで、計画的に行い効果的に指導ができるようにしていきたい。

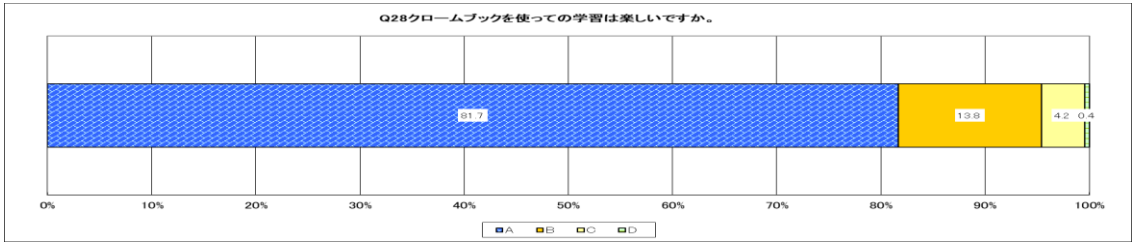
改善策
 ・「児童の規律（ノーチャイム）」では、子どもたちの意識をより高めていきたいと考えている。教職員、児童、保護者で竜王東小学校の決まりが確認できるように「よくわかる竜王東小」を作成した。これを年度始めに配ることによって、共通理解を図り、よりスムーズな学校運営につなげていきたい。

Ⅶ 創甲斐教育について

達成状況
 ・肯定的評価が100%は、3目中1つ「読書活動」だけとなったが、この項の全体の評価の平均値は8.8ポイントで、良好な評価である。
 ・「既習事項を活かした授業」では、評価の平均値が8.8ポイントで良好な評価である。授業では、以前の学習を振り返る事で新たな学びを創る活動がされている。
 ・「読書活動」においては、評価の平均値が8.8ポイントとなっており、指導の意識が高いことがうかがえる。児童アンケートにおいても毎日少なくとも読書をする子が86.5%いることがわかる。昨年度と比べると、全くしない子が3.4%増えているが、2時間以上読む子も1.1%増えている。来年度は「全くしない」の子を少しでも減らすように、家庭に呼びかけたり、学校でも指導を続けたりしていきたい。

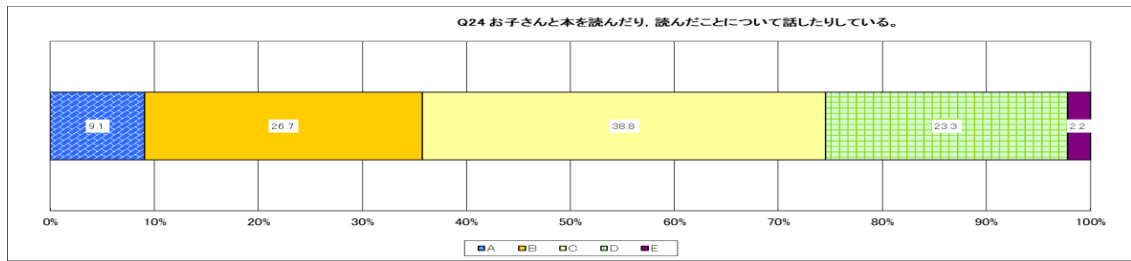


・「一人一台端末を活用した授業」では、評価の平均値が8.8ポイントで良好な評価である。GIGAスクール構想も2年目となり、授業において教職員の一人一台端末を活用する能力が向上してきていることが分かる。子どもたちの評価を見ても95.4%が肯定的評価をしている。1年目の「触るだけで楽しい」から、「授業の中で活用できる」楽しさへと変わってきている中、高い評価がでている。



改善策

- ・「読書活動」については、学校内での指導したことが家庭へもつながるようにしていきたい。保護者との連携を取りながら、家族で読書を楽しめるような取り組みをしていけるように、来年度は計画していきたい。



3 まとめ

〈成 果〉

- ・教職員の自己評価では、36の評価項目の肯定的評価の平均が96.3%となっており、高い意識を持って職務に当たっていることがわかる。本校の教職員が市教育委員会の示す学校評価の各項目を、単なる評価項目としてではなく、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。
- ・児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去2年間の評価及び市全体の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。
- ・昨年度は、コロナ禍2年目で、一昨年と比べ、コロナ対策も日常化した中で、安定した学校経営が行われた。今年度は、コロナ禍3年目となり、新型コロナウイルス感染症についても予防や治療についてだんだんと解明されはじめている。コロナ禍を経て、教育活動で削ぎ落としていくことや新たに加えていくことが見えてきている。それらをしっかり分析し、安全・安心で新しい学校の姿へと大きく舵を取る時期なのかもしれない。今年度は、「働き方改革」を推進する中、分かりやすい学校経営を校長が打ち出し、それを一つ一つ具現化することで、職員が教育活動に集中できたと考えられる。それで、一人一人が自分の分掌をしっかりと意識し、責任を持って取り組むことができたり、周りを見ることができたりする職員が増え、協働意識も上がったといえる。その結果、自己評価の多くの項目で上昇が見られたと考えられる。

〈課 題〉

- ・それぞれの調査において評価が低かった項目については、その結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。
 - ① 「令和の日本型学校教育」の実現をめざし、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた授業改善を行い、誰ひとり取り残すことのない教育活動の推進を図る。
 - ② 地域や保護者との連携のより一層の推進。
 - ③ さらなる「働き方改革」の推進。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつ、児童の健やかな学びを保障していく。